

地域における 口腔機能発達

多職種連携による 支援の取り組み

○赤井綾美¹⁾, 小石剛²⁾

¹⁾NPO法人ウェルビーイング, ²⁾池田市歯科医師会

【背景・目的】

乳幼児期のう蝕の減少の一方、

- 予防管理的な事業だけでは解決しない、ハイリスク児へのアプローチの難しさ
- 子どもに関わる専門職からの、離乳食や食に関する困り事 が増加している。

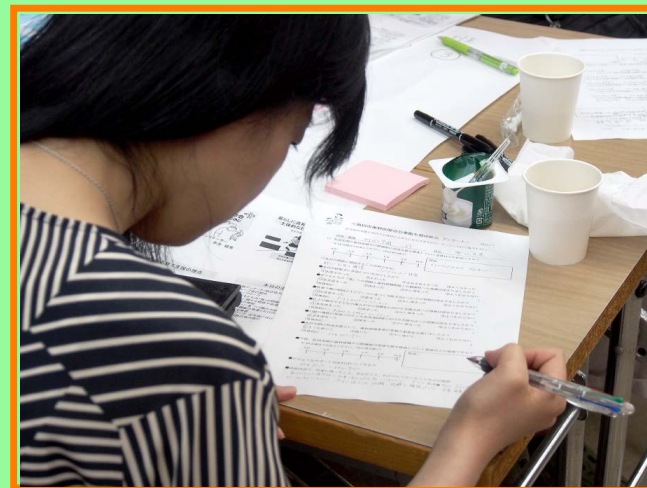
⇒ 食べ方に関する相談内容は背景も多岐にわたり、必要に応じて関連多職種と連携をとりながらフォローアップしていくことが大切である。

大阪府池田市歯科医師会では、関連多職種を交えた新たなソーシャルサポートの醸成を目的とし、ワークショップ形式の研修を行い、多職種間での共通理解と問題意識の共有を行うこととした。

【研究方法】

平成25年度～27年度に開催した研修（5回）より、参加者に**事前および事後にアンケート**を行い、**事業評価**を行いながら**研修内容を検討**した。

研修の参加対象は、
歯科医師・歯科衛生士・保健師・助産師、栄養士、
保育士、教員、その他、子育て支援関係団体等とし、
歯科医師会より各関係団体長宛
に参加依頼の通知を行った。



-研修会 各回のテーマ-

○1回目(H25.7.7)

「楽しく食べて元気な笑顔のために
～お口の機能の発達を知ろう～」

○2回目(H25.11.16)

「楽しく食べて元気な笑顔のために
～口腔習癖の影響と健全な永久歯列の育成に向けて～」

○3回目(H27.3.14)

「口腔機能のリハビリ・予防のための基礎を学ぶ」

○4回目(H27.6.7)

「多職種協働における小児の口腔機能発達支援の推進
～子どものお口を育てよう～」

○5回目 (H28.3.13)

「多職種協働における小児の口腔機能発達支援の推進
～子どものお口を育てようフォローアップ編～」

-研修会について 初回～3回目-

主に顔の見える関係づくりを基本

- 子どもに関わる多職種が同列に顔合わせ。
- それぞれの現場や立場からの子どもの
口腔や食に関する困り事や悩みを共有。



歯科専門職より 情報提供＋実習

- ・ 歯科疾患・口腔機能発達・摂食・嚥下機能
- ・ 口腔機能を体感する食体験実習等

口腔機能に関する知識や評価ポイント、支援技術の理解を深めるよう企画した。



ヨーグルトを口唇を使わずに、食べてみる。

ポテトチップスを唇に触れないように食べてみる。



-研修会について 4～5回目-

4回目：より現場ニーズに応える情報提供

- 先駆的事業の紹介

新宿区の「**食べる方相談**」事業等

口腔機能については、
歯科専門職より
毎回講義を行った。

今後の課題となる事項の**情報収集**

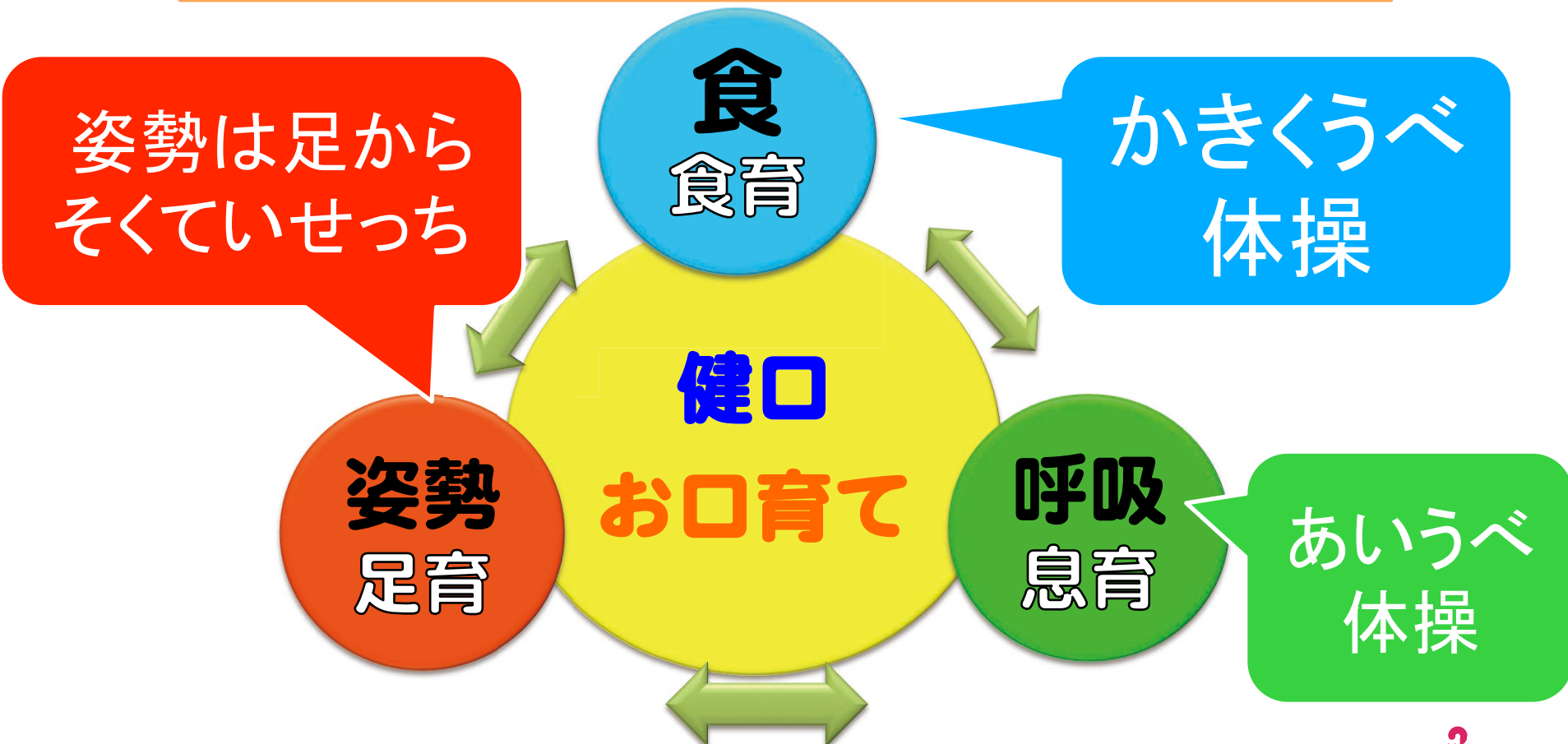
- 今後の**現場での実践に必要とされるサポートのあり方**等について協働ワーク

5回目：多職種に向けて口腔機能発達の 具体的な支援への展開

- 「**息育**」「**食育**」「**足育**」の**3方向支援**
「**お口育て3S（さんえす）**」の提示と解説
- 地域での離乳食教室等の取り組み紹介
- **多職種間で2例の事例検討をワーク**

健口・お口育ての^{さん}えす **3S**

良い口を育てる 食・呼吸・姿勢



あいうべ 3段活用

【結果】

○研修の参加者：延べ約250

1回目 32名、2回目 28名、3回目 47名、
4回目 79名、5回目 60名

○参加職種：13職種

歯科医師、歯科衛生士、保育士、管理栄養士、栄養士、
保健師、言語聴覚士、助産師、歯科助手、
小学校・支援学校教員、医師、子育て支援職など

○以下の共通理解が得られた

- 参加者同士の困り事や悩みの共感
- 口腔機能について
- **乳幼児期における支援の重要性について**

○5回目参加者の参加動機より

- ・ 摂食・嚥下や口腔機能について学びたい
- ・ 退職後、池田市でお口の機能の支援の輪を広げたい
- ・ このような取り組みを自分の地域でも広げたい
- ・ 池田市のしくみを学びたい など

⇒池田市での**取り組みの広がり**と**連携の兆し**が感じられた。

○継続参加者間ではそれぞれの現場においては

- ・ 子どもたちの口腔内や食べ方 ・ 姿勢を意識して観察するようになり、口腔のマッサージや体操を実践するなど、
- ⇒**現場で少しずつ定着している様子**が伺えた。

○「食べ方」支援だけでなく、「お口育て3S」の共有化を図りること ⇒ **「呼吸」や「姿勢」の評価とその支援の必要性について共通認識が得られた。**

○事例検討を多職種間で行ったことにより、

⇒それぞれの専門的視点がさらに広がり、**課題解決を生活行動の中で捉えるヒント**を多く学ぶ機会となった。

【考察】

○これらの研修事業を通し、池田市の乳幼児健診事業＋歯科医師会乳幼児歯科健診の項目に、“食べ方に関する項目”が追加された。

⇒対象者のニーズに応じた支援や相談事業の実施に向けた検討に着手できたことは大きな成果であった。

○「お口の育て3S」の提案は、子どもの口腔機能発達を「食べる」という歯科的視点だけでなく、多職種それぞれの立場から呼吸や姿勢まで全身を包含して捉えることを可能にしたと考えられる。

○今後は「お口育ち3S」を活用し取り組みを展開したい

- 新たな健診体制の整備と人材育成
- 地域の各現場での問題に対応する相談窓口の設置
- 課題解決に向けた多職種連携による地域包括支援システムの一環としての取り組み